

重度脳卒中者への作業療法

特集にあたって

脳卒中者に対する作業療法の現場では、急性期・回復期・生活期といった時期を問わず、多くの OT が重症例へのアプローチに日々戸惑い、試行錯誤しているのではないだろうか？ 本特集は、そのような想いから企画に至った。

一般的に、障害が重度であればあるほど心身の回復にはより長い期間を要し、生活再建に向けた環境調整や、獲得した生活の維持と発展には、時間的・経済的負担と人的資源が必要となる。よって、OT には専門職としての知識と技術を駆使したかわりが求められ、また同時に、多職種協働による包括的・継続的な支援を提供していく体制が求められる。

本特集では、重度脳卒中者への作業療法について、リスク管理のポイント、知覚-運動アプローチの紹介、福祉用具の活用と住宅改修の具体例、成果を生み出すチームのつくり方、当事者による体験記を紹介している。

作業療法の対象が“人”である以上、現場での試行錯誤は永遠に続く。読者の皆様には、「どんなに障害が重度でも、作業療法は対象者の生活をより豊かにすることができる！」という自負のもと、ありきたりで形式的な目標設定をよしとせず、対象者の可能性、作業療法の可能性をこれからも探求していただきたい。

最後になりましたが、ご多忙の中、ご執筆いただきました先生方と当事者の皆様に感謝申し上げます。
(佐尾健太郎)

企画担当

佐尾健太郎 (山梨リハビリテーション病院, 作業療法士)

中村春基 (日本作業療法士協会, 会長・作業療法士)

山本伸一 (山梨リハビリテーション病院, 作業療法士)